

はじめに 「ぶれないこと」

シエラレオネは今年 11 月 17 日に大統領、国会議員、県議会議員の統一選挙を控えています。プロジェクトのカウンターパートや関係者から、各政党の候補者選び、その裏で動く人々の話が聞こえてきます。選挙関係者は投票日まで忙しい日が続くことになります。

選挙後、本省大臣、副大臣は入れ替わるといわれています。全国の各県・市議会では、議長、副議長、県議会議員などの政治家の入れ替わりが予想されます。選挙後は、彼らと新たな信頼関係を構築していくことになります。政治家は意思決定者ですから、プロジェクトを円滑に実施するために彼らとの関係構築は重要になります。信頼構築は一日ではできません。日々のやりとりの積み重ねになります。

そこで大切なことのひとつとして、私たちの支援方針が「ぶれないこと」があげられます。支援の原則とでも言いましょうか、我々が何を目指して協力しているのか、繰り返し同じことを伝える。相手にとって、わかりやすいパートナーとなることが大切でしょう。

ときには柔軟な対応も必要です。でも原則は曲げない、「ぶれないこと」が重要ですね。

引渡し式などの式典では、繰り返しプロジェクトの目的を伝え、そして県議会職員や住民代表者ら関係者の尽力を参加者の前で賛美します。

研修の費用を渡すとき、手当てが安いというクレームに対して、研修は「earning opportunity」ではなく、「learning opportunity」であることを粘り強く説明します。

プロジェクト雇用のナショナルスタッフへは、県議会職員の能力向上が、各自の成果であることを一貫して説明します。

明日も専門家一同、「ぶれずに」プロジェクト関係者と接していきます。

(平林リーダー)



小学校引渡し式に参加した子供たち



県議会や住民代表者の尽力で完成した小学校(奥)、左手前は新校舎が出来るまで使っていた旧小学校

1. 現場活動の実況中継

1.1 モデルワードプロジェクト フェーズ2 ～カギは各セクター県事務所の一層の巻き込み～

モデルワードプロジェクトのフェーズ2が始まりました。フェーズ1の工事期間中のモニタリングや、完成後の維持管理の重要性を認識した経験から、各セクター省庁の県事務所の一層の巻き込みがフェーズ2のキーポイントの一つとして挙げられます。

フェーズ2の事業選定の初期段階には、住民からのニーズ収集があります。他方、今回カンビア県、ポートロコ県ともに、県議会の本来業務である3カ年の県開発計画を策定する年にあたり、同計画策定でもコミュニティの現状調査及びニーズ収集の過程を経ます。CDCDプロジェクトの目的は県議会の開発事業運営管理のための包括的な能力強化です。そこで、県開発計画策定とモデルワードプロジェクトのニーズ収集を効率的に統合して行うことになりました。

フェーズ1の教訓を最も活かしているのはカンビア県議会開発計画官です。フェーズ1ではニーズ収集から、それぞれのセクターの方針・規定に沿って最終候補事業を絞る過程で、各セクターの県事務所に出向いて協議し、時間も労力も多くかかりました。その結果、セクターの県事務所の工事モニタリングの参画は非常に限定的でした。

しかし今回は、県議会開発計画官がニーズ収集チームに各セクター（給水、教育、農業など）の県事務所関係者を巻き込んだおかげで、収集データの確認や支援事業候補の選定を協議する会議に、各セクターの県事務所職員がもれなく代表を送り、透明性を確保しながら行われました。

ポートロコ県開発計画官は、ニーズ収集後の支援事業の絞込みに際し、カンビア県同様、各セクターの県事務所に会議招集を行う予定で、上司の主任行政官から承認を得ています。

このように、フェーズ1の教訓を活かしながら、フェーズ2を開始した県議会職員に、今後も期待が高まります。

池上専門家（村落開発担当）



住民に説明する県水道局と県教育事務所職員



住民代表者に説明するカンビア県開発計画官

1.2 エクセル研修 ～真剣にエクセルと向き合う 8日間～

研修支援では、カンビア県・ポートロコ県議会職員を対象に、実務に役立つエクセル研修を実施しました。今回は、研修講師を各県議会に招き、1日あたり4時間研修をし、研修後県議会職員は通常業務に戻る、という日程を組みました。

研修参加者の多くは、エクセルをほとんど使ったことがないため、県議会職員が業務で使うであろう基礎から中級レベルの内容に絞ってコースを計画しました。研修初日は、エクセルとはどんなものかの説明から始まり、みんなでエクセルを開くところから始めました。

研修参加者がエクセルスキルを習得できるように、研修の最終日には、テストを実施しました。通常よりも10%ほど高い、得点率75%を取らなければ、研修修了書を渡さないという条件をつけました。そのせいか、講義の前後でもテキストを開き、復習する参加者の姿もみられました。

研修はまもなく修了しますが、参加者は確実にエクセルのスキルを習得することができているようで、すでに業務の中でさっそくエクセルを活用している参加者もいます。

今回のエクセル研修の実施にあたっては、各県の人事担当官が中心となり、研修日程・会場・参加者調整など、研修の準備を進めました。また研修実施期間中は、参加者への連絡役としても活躍しました。

県議会職員が研修を準備した例は過去になかったようで、予定していた参加者の欠席により研修生の変更や、試験日程の変更等、調整が上手くできおらず急な変更が多くあり、県議会内での情報共有・日程調整には課題が残りました。

今後は、両県議会人事担当官を中心に今回の研修で得た運営上の課題を共有し、改善をしていければと思います。



カンビア県議会の研修の様子



ポートロコ県議会の研修の様子



県議会人事官と打ち合わせする反町専門家

反町専門家（研修計画・実施担当）

2. プロジェクトの進捗報告

2.1 県開発モデル構築・フィーダー道路改修プロジェクト～2年目の教訓と3年目は主体的な活動を～

シエラレオネでは、地方内の村落を結ぶ道路はフィーダー道路と呼ばれ、大小問わず、地域の交通網として重要です。ただし、アスファルト舗装はなく、道路の改良と機能の維持は担当部局である道路局と県議会の課題です。このプロジェクトは、関係機関のかかる能力向上を目的としています。

9月から3年目、フェーズ2に入っているフィーダー道路改修プロジェクトですが、2年目の工事は両県とも、未曾有の大雨に悩まされつつ、雨期真っ只中の7月によく完工しました。主要な施工監理者である道路局エンジニアに、県議会エンジニアが協力する体制を構築し、紆余曲折の中、何とか終了しました。



住民にボランティアによる維持管理を説明するカンビア県議会エンジニア（左端）。

2年目までの成果として、地方分権化に伴い今まで曖昧だった道路局・県議会の体制の整理、初期道路計画の準備、道路維持管理体制を構築し、パイロット（サンプルケース）として実施しました。エンジニアからは、道路計画が準備され、体制が整理されることでプロジェクトを進めやすくなったとの声が上がっています。

さて、3年目は2年目までの教訓を生かして実施するモデルプロジェクトと位置づけています。ここで、重点を置くのは、①包括的な道路計画の策定、②実施体制の改訂、③維持管理です。

1～2年目はプロジェクトチームがカウンターパートに代わって実施することも結構ありました。今後はカウンターパートの能力向上のために、カウンターパートに主体的に実施してもらい、カウンターパートが動かなければ、また、指示がなければ、プロジェクトが動かない、そのようなオーナーシップを醸成することが必要と感じています。



完成したカンビア県のフィーダー道路（15km）。幹線道路同士をつなぐ重要なバイパスです。以前は道路幅はこの半分、穴ぼこだらけでした。

フェーズ2の最重要活動は、道路の維持管理です。これは、国の政策を県議会が担当し、その予算が県議会に配分されることになっていますが、実施体制は不明確でした。2年目までに、まず、日常的に実施す

る維持管理について、住民主体の組織を構築して実施する体制を導入しています。

ただし、維持管理予算が県議会にいまだに配分されておらず、進められない状態です。ほっておくと、雨期はスコールのような雨が毎日続くシエラレオネでは道路の状態がどんどん悪くなっていきます。そこで、まず無償でも作業を進めることが大事と提言すると、開発担当官を除くほとんどのカウンターパートから、シエラレオネでは無理だと否定的な意見が出されました。農耕民族の日本では、昔からボランティアで共同作業をする文化が根付いていますが、難しいようです。

ただし、最近、ある道路の状況を見に現場に行った際に、住民からもボランティアでもとりあえず維持管理を始めたいとの意見が出されました。それを機にエンジニアや開発担当官も考えを変え他の同僚を説得し、住民への啓発活動を実施し、予算が分配されるまでという期限つきで、ボランティアの作業を住民に話す方向となりました。

フェーズ2を始めるにあたり、ようやくカウンターパートの主体性が出てきたように感じます。道路局、県議会のエンジニアからも、以前は他のドナープロジェクトでは活動に対する日当が払われているため、それに対する要望をされることが多々ありました。ただし、最近は、「CDCD プロジェクトは、カウンターパートの主体性を重視し、金よりも自分たちの能力向上に重点を置いてくれる、そしてそれが今後の活動に生かされるようになってきた」ということが聞かれるようになりました。そうなれば、ますます活動に邁進し、カウンターパートの普段の活動にも影響が出てくることでしょう。



ポートロコ県の道路工事状況を最終確認する道路局エンジニア（右）と宿谷専門家（左）。真剣に状況を確認しています。

カウンターパートによく話していることは、日本ではよく「心・技・体」が重要と言いますが、まず、心が重要だということです。自分たちの技術は何のために使うのか、それは県議会・道路局の役割であるコミュニティの、県の発展のためであり、その心がなければ住民に頼られる存在にはならないでしょう。そのために、自分の立場と役割を明確にすることも重要です。

ことある毎に言っているため、この考えも少しずつですが浸透しているようです。3年目も彼らの心の変化も見守っていきたいと思います。

宿谷専門家（道路計画・設計・施工監理担当）

3. 専門家の一日 ～最も忙しい一日～

今回は、「最も忙しい一日」と題して、お伝えします。11月中旬に総選挙が控えるシエラレオネでは、10月中旬からコミュニティとのミーティングを控える予定で、CDCD プロジェクトの活動も制限される時

期が迫っています。コミュニティのニーズ収集をつい最近になって開始したポートルコ県議会では、一日も無駄に出来ない日が続いています。

7:30 目覚まし時計がなる前に目が覚める：

ベッドから起きる一時間ぐらい前から、プロジェクト宿舎の他の部屋のドアの開け閉めの音が聞こえて眠りが浅くなっていました。でも、どうしても体をこの時間まで起こすことが出来ません。7時半になったので、今日行すべき事柄を裏紙の紙片にすばやく列挙して書き、仕事の準備をします。仕事を立て込んでくると仕事の夢を見るが多くなります。朝起きて一番に3人のナショナルスタッフへの指示をひらめくことが多いです。



ニーズ収集の会合で、住民代表者に説明する村落開発官

8:30 ポートルコ事務所へ出勤：

カンビア事務所に向かい、次週以降の現場での活動についてナショナルスタッフに、カンビア県議会と調整しておくべき準備作業の指示を出します。私は本日ポートルコ県の対象コミュニティにニーズ収集に行く予定です。9:30には出発予定でしたが、現地での会合に必要な書類のコピーが終わらない県議会開発計画官を支援します。

10:30 ポートルコ県の主任行政官との打合せ（立ち話）：

現場に行く準備をしていると、普段なかなか会えないポートルコ県の主任行政官がやってきました。急いでプロジェクトの現状説明をし、ニーズ収集後必要なアクションについて承認とアクションを依頼しました。



地元ニーズの優先付けをする住民代表者たち

11:00 現場へ向けて出発

現場では2箇所ニーズ収集の会合を計画しています。最初の場所まで車で約2時間。車中で開発計画官と明日以降のニーズ収集の打ち合わせを行いました。

13:00 現場に到着、ニーズ収集会合開始：

2年前にCDCDプロジェクトで支援した補修済みの簡易裁判所が会場でした。ここではヘルスポスト建設のニーズが高いことがわかりました。

15:30 別の現場へ移動し、本日2回目のミーティング実施：

建設途中の学校が会場でした。道路整備と井戸の建設がもっともニーズが高いことがわかりました。

18:00 ポートロコへ移動開始：

車中で県開発計画官からフェーズ1の教訓について聞きとりを行います。

21:30 メールの確認開始：

プロジェクト宿舎に戻り、食事を済ませてから、まだ見れていないメールを開きます。急ぎのものから、返信を開始。その後、今日瑕疵検査が終わったばかりの業者から、最終支払いのタイミングについて確認と催促が電話で入ったので、支払い書類の作成を行います。



住民代表者に働きかける村落開発官

1:30 ベッドへ：

支払い書類作成後も、部下から来ている報告のメールなどを確認、必要に応じて返信を行っていたら結局この時間になってしまいました。とにかくベッドに体を横たえます。その後、夜中にトイレに行きたくなって急に目がさめたのですが、明日（今日）行くはずの対象コミュニティでのニーズ収集用資料の修正を思い出しました。結局気になって寝付けないので、パソコンを開けて、急いで修正作業を行います。

今回はモデルワードプロジェクトのニーズ収集という忙しい時期にあたったため、忙しい一日の紹介になりました。週末は比較的ゆっくり起床して、体力を回復するよう努めています。

県議会職員の頑張りに鼓舞される毎日です。次の休暇を心の糧にしながら、日々精一杯尽力したいと思います。

池上専門家（村落開発）

4. 大好評のコラム

4.1 シエラのチカラ ～コミュニケーション橋！？～

何事を行うにもまずは準備、いわゆる段取りをしっかりとる。そして事にあたるべきだ、という考え方が日本人には浸透しているように思えます。日本の田舎の伝統的な神社やお寺の行事などに駆り出されるとその考え方は土着のものだと改めて考えさせられます。

では、それは日本人特有のものでしょうか？と問われる如何でしょうか？当地シエラレオネにおいても伝統行事があり、コミュニティが決まりごとに従ってそういった行事を長年にわたり共同で維持管理してきた訳です。維持管理にはそれなりのインプット（労力、段取り）が伴っているにちがひありません。

さて話しは変わりますが、CDCD プロジェクトは県議会の能力強化を目指します。そのサイクルの過程で現場に足を運ぶ必要性が大です。今日、県議会職員と共に各専門家がフィールドに出向いています。

ただ、単に出向くものではありません。カウンタパートと協議し目的を明確にした上でのフィールド調査です。フィールドに出るといふ姿勢をお互いが示し合い、その姿勢でもって始めて様々な課題に取り組めるにちがいありません。

右の写真にあるのはコミュニケーション橋！？車両 1 台しか通過できない橋です。直線で目視でき、状況がわかり易いということもありますが、双方向で無言のシグナルを発します。未だ橋の途中で双方向の車両が揉めあう場面には遭遇していません。お互いが我慢して譲り合った結果、スムーズな走行ができ、そのメリットは当事者に還元されることになります。



田中専門家（業務調整）

3. コラム：ごっつあんです！シエラレオネ 第24話 一本省で食べれるお弁当を一挙紹介～

今回は首都フリータウンにある地方自治地域開発省内のプロジェクト事務所で楽しめるお弁当を一挙に紹介します。

カウンターパート機関である地方自治

地域開発省は日本でいう地上 10 階建ての合同庁舎の 7 階にあります。

ビルは 40 年以上前に建てられた古いものです。エレベーターはありますが、停

電やメンテナンスの不備で、稼動しているのは、中央にあるものだけです。そこで健康管理もかねて、本省内にあるオフィスまで毎日計 150 段以上ある階段を上がります。



魚のフライトとジョロフライス（左）とチキンとライスヌードル（右）



魚や肉のばら売り（左）、シエラレオネ定番のキャサバの葉とご飯（中央）、お弁当を売りに来る女性（右）

合同庁舎ビル1階には食堂がありますが、仕事でなかなか事務所を離れることできない日が多くなりがちです。そんなときに、オフィスまで弁当を売りに来てくれると大変助かります。

シエラレオネで獲れた魚やチキンとクスクス、ビーフン、お米、スパゲティの組み合わせがお気に入りです。値段は日本円で150円程度から。ばら売りもありますから、小腹が減ったときにも、魚やチキンフライだけを買うことも出来て、とても便利です。

毎日プロジェクト事務所にお弁当を売りに来る女性は3人います。早い者勝ちなので、お弁当うちの皆さんは、お客さんを取られないように、毎日階段を上り下りして販売に励んでいます。

これらのお弁当をこれまで出張で来られた方々は、本省内にあるプロジェクト事務所で、これらのお弁当を楽しめました。配達お弁当の皆さん、明日もお願いします！

ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★☆☆。配達弁当には毎日助かっています。



クスクスとスパゲティとフライドチキン

次号へ続く

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、田中専門家（業務調整）、宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理）、反町専門家（研修計画）、池上専門家（村落開発）：2012年9月実績

